

HITACHI
Inspire the Next

日立過熱水蒸気オープンレンジ **家庭用**

クッキングガイド

〈取扱説明書・料理集〉

型式 **MRO-DS7**

保証書別添付

このたびは日立過熱水蒸気オープンレンジをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。このクッキングガイドをよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、保証書とともに大切に保存してください。

「安全上のご注意」 → P.6~10 をお読みいただき、正しくお使いください。



鶏のからあげ

ヘルシーシェフ

日立過熱水蒸気オープンレンジ



はじめに

一度ドアを開閉し、表示部に「0」を表示させてからお使いください。

- 使用していないときの消費電力を節約するため、スタートせずに放置すると、約10分後に、自動的に電源を切ります。

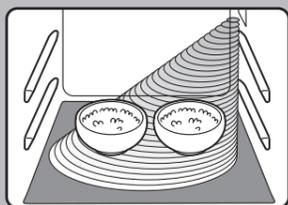
また、電源プラグをコンセントに差し込んだだけでは電源は入りません。
(待機時消費電力オフ機能)



ドアを開閉すると電源が「入」になり、表示部に「0」を表示します。

オート調理を上手に使うために

- 食品の表面温度をはかってオート調理する赤外線センサーが内蔵されています。
- 加熱方法や時間、温度の設定が不要な32種類のオートメニューを用意しています。メニューを選んでスタートするだけで上手に仕上がります。

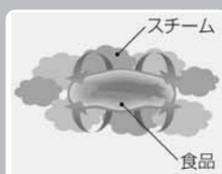


食品を加熱室のテーブルプレートの中央においてください。

※食品を端に置いたり、少量の食品を加熱すると正しく食品の温度がはかれず加熱しすぎや加熱ムラとなり、発煙、発火の恐れがあります。

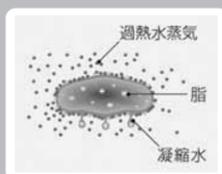
スチーム調理

- スチーム(約100℃水蒸気)調理



食品からの必要以上の水分のとびを抑え、しっとり、柔らかく仕上がります。

- 過熱水蒸気調理(100℃以上の水蒸気)



肉などの余分な脂や魚などの塩分を凝縮水とともに落とし、ヘルシーに仕上がります。

上手に仕上げるため、使用時は給水タンクに満水まで水を入れます。雑菌の繁殖を防ぐため、使用後は給水タンクを空にし、水抜きをしてください。→P.17、43

もくじ

ご使用の前に

●はじめに	2
●各部のなまえ・操作パネル・付属品	4
●安全上のご注意	6
●加熱のしくみ	10
●据え付け	11
●加熱の種類による付属品の使いかた	11
●使える容器・使えない容器	12
●上手な使いかたのポイント	
・食品の分量と容器の大きさ	14
・食品を置く位置	14
・2個以上の食品の同時加熱	14
・調理中の仕上がり状態確認	15
・オート調理後の追加加熱	15
・調理後の食品や付属品の取り出し	15
・メロディーの切り替えかた	15
●初めてお使いになるときの準備	16
●給水タンクの使いかた	17

使いかた

●調理の手順	18
●オート調理	
・オート調理で使う付属品・参照ページ	20
・ごはんやお総菜をあたためる	22
・スチームでお総菜をあたためる(スチームあたため)	24
・オート調理(のみもの・デイリー)、(スチーム調理)、(過熱水蒸気)	26
・オート調理(スチーム調理)21シュー-22フランスパン	29
●手動調理(レンジを使う)	
・食品を一定のワット数で加熱する	30
・加熱時間の決めかた・下準備をする	31
・加熱途中でワット数を自動的に切り替える(リレー加熱)	32
●手動調理(グリルを使う)	33
・魚など表面に焦げ目をつける調理	
●手動調理(オーブンを使う)	
・予熱ありの使いかた	34
・予熱なしの使いかた	36
●手動調理(スチームを使う)	
・スチームとレンジ・グリル・オーブンの組み合わせ	37

●手動調理(発酵を使う)	
・レンジスチーム発酵	38
・オーブンスチーム発酵	39
●手動調理をするときの加熱時間	40

お手入れ

●本体・付属品のお手入れ	42
●水抜きのしかた	43
●においが気になるとき(脱臭)	43
●加熱室の清掃のしかた	43

こんなときは

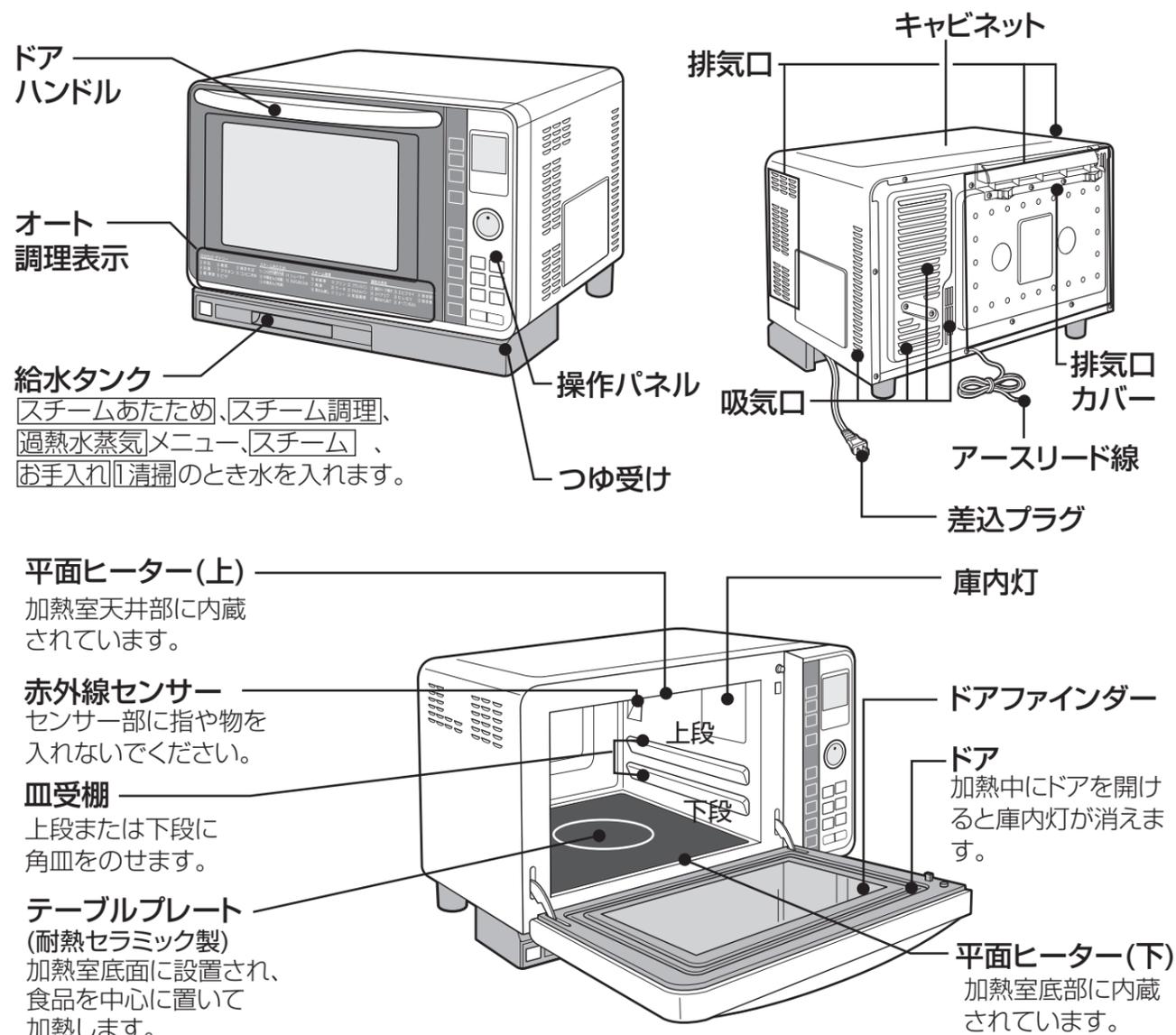
●料理が上手にできないとき	
・ごはんのあたため	44
・半解凍・解凍	44
・お総菜のあたため	45
・牛乳のあたため	45
・野菜	46
・スポンジケーキ	46
・シュークリーム	46
・クッキー、バターロール	46
●お困りのときは	47
●次の場合は故障ではありません	47
●表示部に次の表示が出たとき	49

料理集 50~82

●保証とアフターサービス	83
●「ご相談窓口」	83
●仕様	裏表紙

各部のなまえ・操作パネル・付属品

各部のなまえ・操作パネル・付属品



平面ヒーター(上)

加熱室天井部に内蔵されています。

赤外線センサー

センサー部に指や物を入れないでください。

皿受棚

上段または下段に角皿をのせます。

テーブルプレート

(耐熱セラミック製)
加熱室底面に設置され、食品を中心に置いて加熱します。

スチームボイラー

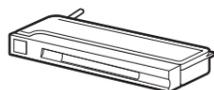
水を沸とうさせるボイラーです。本体内部に組み込まれています。

付属品

■角皿 (ホーロー製)



■給水タンク



■焼網



■クッキングガイド (本書)

■保証書

※「取っ手」を別売品(部品番号MRO-N80 003)として扱っています。お買い上げの販売店にご相談ください。(使うときは、厚めの乾いたふきんやお手持ちのオープン用手袋を使い、両手で取り出します。)



取っ手(別売品)

部品の追加購入 2008年7月現在

部品名	部品番号	希望小売価格
取っ手	MRO-N80 003	840円 (税抜800円)

各部のなまえ・操作パネル・付属品

操作パネルのはたらき

のみもの・デイリー	スチームあたため	スチーム調理	過熱水蒸気
3 牛乳 6 根菜 9 焼きそば	11 しっとりあたため 14 シューマイ	16 半解凍 19 プリン 22 フランスパン	25 鶏のハーフ焼き 28 エビフライ 31 焼き野菜
4 お酒 7 グラタン 10 コンビニ弁当	12 中華まん(冷蔵) 15 天ぷらあたため	17 解凍 20 ケーキ 23 かんたんパン	26 スペアリブ 29 ヒレカツ 32 焼き魚
5 葉・果菜 8 ピザ	13 中華まん(冷凍)	18 茶わん蒸し 21 シュー 24 低温調理	27 鶏のからあげ 30 オープン天ぷら

オート調理表示

オート調理で選択できるメニューを番号とともにドアの前面部分に表示しています。

手動調理を使う

手動調理で調理するとき加熱の種類に合わせて選択します。

時間を設定する

手動調理の時間の設定を行います。

温度/仕上がりを選ぶ

1あたため、2解凍あたため、オート調理の仕上げや手動調理の温度の設定を行います。

表示部

設定内容や運転状況を表示します。(表示は全点灯イメージ図です。)

加熱をスタートする

1あたため、2解凍あたため、オート調理、手動調理などの運転のスタートを行います。

オート調理を使う

キーを押してオート調理の種類を選びます。

とりけしをする

設定内容や運転のとりけしを行います。

お手入れをする

加熱室の汚れを落としやすくしたり、においを軽減します。

メニューを選択する

オート調理のメニュー番号の選択を行います。



※PAM1000Wについて

高周波出力1000Wは、短時間高出力機能(最大3分間)です。オート調理の1あたため、2解凍あたため等の限定したメニューにのみ働きます。

安全上のご注意

※この機器は一般家庭用です。業務用にはお使いにならないでください。

お使いになる人やほかの人への危害、財産への損害を未然に防止するため、お守りいただくことを、次のように説明しています。また、本文中の注意事項についてもよくお読みのうえ、正しくお使いください。

ここに示した注意事項は

表示内容を見逃して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

危険 この表示の欄は、「死亡または重傷を負うおそれが高い」内容です。

警告 この表示の欄は、「死亡または重傷を負うおそれがある」内容です。

注意 この表示の欄は、「傷害を負うおそれがあるか、または物的損害の発生のおそれがある」内容です。

表示の例

危険 気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

禁止 してはいけない「禁止」内容です。

指示 実行しなければならない「指示」内容のものです。

ご使用のまえに

危険

(火災・感電・けがの原因)

- 改造はしない。また、サービスマン以外の方は、分解したり修理しない。
- 穴や給水タンクの収納部、すき間などに指や物を差し込まない。特に子供のいたずらなどに注意する。



据え付けるとき

警告

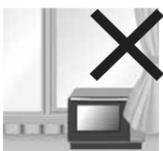
(感電・ショート・発火・火災の原因)

- 電源コードや差込プラグを傷付けたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものを載せたり、はさみ込んだりしない。
- 傷んだ電源コードや差込プラグ、ゆるんだコンセントを使用しない。
- 交流100V以外では使用しない。



(ヒーター使用時の高温で引火の原因)

- 燃えやすいもののそばに置いたり、熱に弱いものやカーテン、スプレー缶などを近づけない。
- たたみ、じゅうたん、テーブルクロスなど熱に弱いものの上に置かない。



(火災・感電の原因)

- 電源は定格15A以上の専用コンセントを単独で使い、他の器具と併用する分岐コンセントは使わない。



(頭からかぶるなどすると、口や鼻をふさぎ窒息の原因)

- 包装用ポリ袋は幼児の手の届かない所に保管または、廃棄する。

据え付けるとき

警告



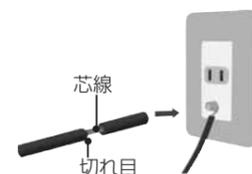
アースを確実に取り付ける。
(故障や漏電の時の感電防止)

取り付けは、販売店または電気工事店にご相談ください。

アース線を接続せよ

■アース端子がある場合

リード線の先端の皮をむき、アース端子付コンセントのアース端子に確実に固定してください。



■アース端子がない場合

感電防止のため、アース線の接地工事には「電気工事士」の有資格者が工事するよう法律で定められています。お買い上げの販売店か、お近くの電気工事店にご相談ください。(工事は有料)

ご注意

ガス管、水道管、避雷針や電話のアース線への接続は絶対にしないでください。(爆発・火災・感電などの事故防止のため法令で禁止されています。)

- 次の場合は、感電事故を防止するため、電気工事士の有資格者によりD種接地工事(接地抵抗100Ω以下)をすることが法律で義務づけられています。電気工事店に依頼してアース工事をしてください。

湿気が多い場所

- 水蒸気が充満する場所 ●土間、コンクリート床
- 酒、しょうゆなどを醸造、または貯蔵する場所

水気のある場所

この場合、漏電しゃ断器の取り付けも義務づけられています。

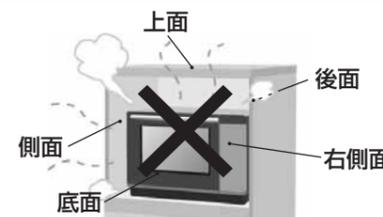
- 水を取り扱う土間、洗い場など水気のある場所
- 地下室など常に水滴が漏出したり、結露する場所

注意

(火災・発火・感電の原因)



- すき間があっても5面(上面、左側面、右側面、後面、底面)を囲む設置はしない。
- 電源コードは、排気口や温度の高い部分に近づけない。
- 水のかかるところや熱気、火気の近くで使わない。
- 水平で丈夫な場所に置く。(振動・騒音・本体落下の原因)
- 製品本体が転倒落下した場合は、使用せず、点検を依頼する。



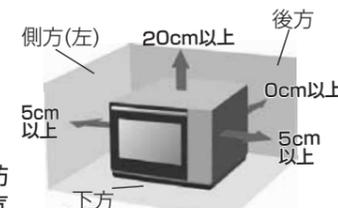
本体の落下・転倒を防ぐために、転倒防止金具(部品番号MRO-N80-016)を別売品として扱っています。お買い上げの販売店にご相談ください。



- 差込プラグの抜き差しは、コードを持たずに、差込プラグを持って行う。
- 使用前に包装材は全て取り除く。
- 本体と壁などの間は下表の距離以上にあける。(過熱して発火する恐れ)

消防法	基準適合	組込形			
可燃物からの離隔距離(cm)					
上方	側方(左)	側方(右)	後方	下方	
20	5	5	0	0	

この過熱水蒸気オーブンレンジは「消防法 告示第一号(対象火気設備等及び火気器具等の離隔距離に関する基準)」に適合しております。建築物の可燃物等からの離隔距離は表に掲げる値以上の距離を保ってください。



「周囲の保護のために」左記寸法を離しても調理物の油で汚れたり結露することがあります。排気が直接壁にあたらないように据え付けてください。あらかじめアルミホイルを壁面に貼ると汚れを防止できます。後面がガラスの場合、温度差で割れる恐れがあるので20cm以上あけてください。

使用するとき

警告

(事故の原因)



- 子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところで使わない。(やけど・感電・けがの恐れ)
 - 調理中に差込プラグを抜き差ししない。(火災・感電の原因)
- 抜くときは、とりけしキーを押した後にする。

使用するとき

⚠ 注意

(感電・けが・電波漏れ・故障・火災の原因)



- クッキングガイドに記載されている方法以外では使わない。
- 本体に水をかけない。
- 本体やドアに無理な力を加えたり乗ったりしない。
- ドアに物をはさんだまま使わない。
- 衣類の乾燥など調理以外の目的に使わない。(発煙、発火、やけどの原因)
- テーブルプレートに衝撃を加えない。
割れたり、ひびが入ったときは、そのまま使用せずに、お買い上げの販売店にご相談ください。
そのまま使用すると故障の原因となります。
- 吸気口・排気口をふさがない。
- 長期間使わないときは、差込プラグをコンセントから抜く。
- 食品は加熱しすぎない。(発煙、発火の原因)
- 少量(100g未満)の食品をオート調理で加熱しない。
- 食品をテーブルプレートの端に置いてオート調理で加熱しない。
- 本体の上に物を置かない。(過熱してこげ、変形の恐れがあります。)

(やけど・けが・火災の原因)

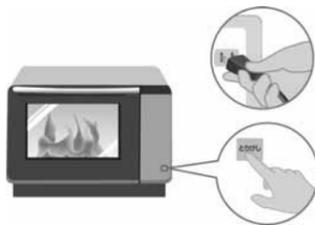


- 調理後の食品の出し入れに注意する。
容器やテーブルプレートが熱くなるときがありますので、注意をして取り出す。
- クッキングガイドの指定分量以外の加熱は、手動調理で様子を見ながら加熱する。
- 飲みもの(水、牛乳、お酒、コーヒー、豆乳など)やカレーやシチューなどのとろみのあるもの、油脂分の多い生クリーム、バターなどは、加熱中や加熱後食品を取り出すとき、突然沸とうして飛び散り、やけどの恐れがあるので注意する。(飲みものは加熱前にスプーンなどでかき混ぜます。)
- 空焼き(脱臭)を行うときは加熱室に何も入れない。
- 空焼き(脱臭)を行うときは、油の焼ける臭いや、煙が出る場合があるので、窓を開けるか、換気扇を使って換気を行う。

(火災の原因)



- 食品くずをつけたまま使わない。
- 加熱室内で食品が燃え出したときは、
1. ドアを開けない。(勢いよく燃える恐れがあります。)
2. とりけしキーを押し、運転を止めてから、差込プラグを抜く。
3. 本体から燃えやすいものを遠ざけ、鎮火するまで待つ。
- 鎮火しない場合は、水か消火器で消す。そのまま使用せず、必ず販売店に点検を依頼する。



(やけど・けがの原因)



- ヒーター使用中や終了後しばらくは、高温になっているので本体(ドア、キャビネット、加熱室とその周辺)、角皿、焼網にふれない。
- 熱くなったドアやテーブルプレートなどに水をかけない。(割れる恐れがあります。)
- 調理中および調理後、顔などを近づけてドアを開けない。
(調理終了後も一部、スチーム、過熱水蒸気が出ていることがあります。)



- 調理が終わったら食品をすぐに取り出す。(余熱で焼け過ぎになる恐れがあります。)
- 食品の出し入れは、やけどの恐れがあるので、厚めの乾いたふきんやお手持ちのオーブン用手袋を使う。

使用するとき(レンジのとき)

⚠ 注意

(やけど・けが・火災の原因)



- 調理以外の目的に使わない。
レンジ加熱で温めるタイプの湯たんぽ、哺乳びん(消毒バック)などを加熱しない。
- レンジ加熱では、ゆで卵を作ったり、あたためたりしない。
(破裂の恐れ)
- 目玉焼きやおでんのゆで卵などのあたためもしない。
(卵を加熱する場合はときほぐしてから加熱する)
- 加熱室が空のまま加熱しない。(故障の原因)
- 鮮度保持剤(脱酸素剤など)を入れたまま、また包装にラベルやテープを貼ったままで加熱しない。
- 角皿、焼網は使わない。(火花(スパーク)の原因)
- 1あたため**で飲みものを加熱しない。(飲みものは**3牛乳****4お酒**で加熱する)
- 金属の調理道具やアルミなどで加工したプラスチック容器は使わない。(故障の原因)
- 食品の分量にくらべて大きすぎる容器でオート調理しない。
- 缶詰やレトルト食品は缶や袋のままで加熱しない。



生卵

ゆで卵

黄身や目玉焼き

(やけど・けがの原因)



- 乳幼児のミルクやベビーフードは**レンジ500W**で様子を見ながら加熱し、仕上がり温度を確認する。(オート調理で加熱しないでください。)
- 市販のベビーフードは、そのまま加熱しないで、容器に移し変えて加熱する。
- ラップやふたなどのおおいははずすときは、注意する。(蒸気が一気にでる場合があります。)
- 膜や殻つきのものは、切り目や割れ目を入れる。(破裂してやけどやけがの原因)
- 容器やテーブルプレートが熱くなるときがあるので注意して取り出す。
- ビンのふたや栓(ネジ式など)は、はずして加熱する。

給水タンクを使うとき

⚠ 注意

(変形・破損の原因)



- 給水タンクが破損した場合は、使わない。
水が漏れて、故障の原因になります。お買い上げの販売店にご相談ください。
- 給水タンクを食器洗い乾燥機、食器乾燥機、食洗器に入れない。
- 給水タンクを熱湯にはつけない。(熱湯消毒などはしない。)
- 給水タンクをコンロのそばや直接高温になる場所には置かない。
(給水タンクが変形し、収納部にセットできなくなります。)
- 給水タンクを5℃以下の環境では使用しない。(スチーム調理が上手にできなくなります。)
- 給水タンクには、水以外は入れない。
(アルコール類を入れると発火する恐れがあります。)

(健康懸念の原因)



- 給水タンクの水は、使うたびに新しい水を入れる。
(水は、水蒸気となって直接食品に触れるので衛生的で新しい水を使用してください。)
- 給水タンクは、こまめに洗い、清潔に保つ。
(水の入れ替えだけでは、給水タンクに水あか、ぬめりが付着するのでやわらかいスポンジを使い、台所用中性洗剤で洗ってください。)

お手入れのとき

警告

(やけど・感電の恐れ)



- ぬれた手で差込プラグの抜き差しはしない。
- 差込プラグの刃および刃の取り付け面のほこりをよくふく。
- 本体の掃除は、差込プラグを抜き本体が冷めてから行う。

お願い

- ラジオ、テレビ、無線機器およびアンテナ線は3m以内に近づけない。(雑音や映像の乱れの原因)
- 落雷の恐れがあるときは、差込プラグをコンセントから抜く。(故障の原因)

加熱のしくみ

レンジ

電波(高周波)で食品を加熱します。
電波(高周波)には3つの性質があります。



水分を含んだ食品には「吸収」されます。



ガラス、陶磁器などの容器では「透過」します。



金属にあたると「反射」します。

食品に吸収された電波は、水の分子のまさつ運動を活発にし、熱を発生させます。このまさつ熱で食品をスピーディーに加熱します。

レンジ加熱の特長



スピーディーで経済的です。



水を使わないので栄養素が保たれます。



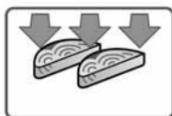
色や形、風味が保たれます。



盛りつけたままで加熱できます。

グリル

食品を上ヒーターで加熱し、食品の表面にこげめを付け、中はやわらかく仕上がります。



オーブン

上下ヒーターで加熱室の温度を均一に保ち、食品全体を包みこむようにして焼き上げます。



スチーム

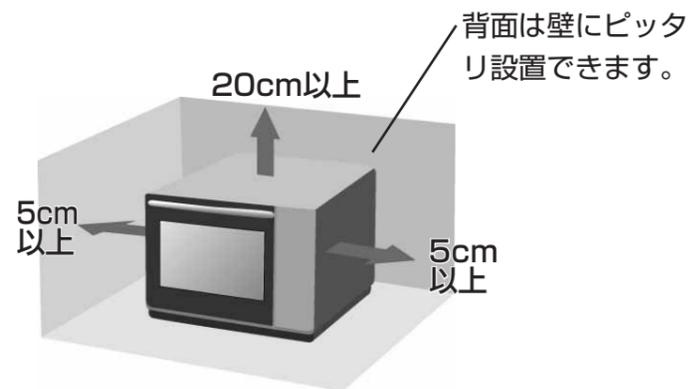
加熱室にスチーム(100℃前後の水蒸気)を充満させながらレンジ、またはグリル、オーブンと組み合わせて食品を加熱します。食品から水分が必要以上に飛ばないのでしっとりやわらかく仕上がります。

過熱水蒸気

加熱室に過熱水蒸気(100℃以上の水蒸気)を充満させながらグリルまたはオーブンと組み合わせて食品を加熱します。肉などから余分な脂を落としてヘルシーに仕上がります。

据え付け → P.6、7

- 本体と壁の間は上面20cm以上、左右側面5cm以上、間をあけて設置します。
※背面の排気口からの熱気や油煙で、壁がよごれることがあります。
※熱に弱いものやカーテンのそばに据え付けしないでください。
- 事故防止のため、アースを確実に取り付けてください。 → P.7



加熱の種類による付属品の使いかた

■手動調理でのご使用について

		給水タンク	角皿	焼網
レンジ加熱	レンジ	—	×	×
	スチームレンジ	○	角皿と皿受棚の間で火花(スパーク)が発生し損傷します。	網の間で火花(スパーク)が発生し損傷します。
オーブン加熱	オーブン	—	○	○
	スチームオーブン	○	○	○
グリル加熱	グリル	—	○	○
	スチームグリル	○	○	○

■オート調理でのご使用について

オート調理ではレンジ出力やオーブンまたはグリルの温度を自動でコントロールするため、オート調理一覧に記載されている付属品が使えます。 → P.20、21

■角皿と焼網は、クッキングガイドに従い、下の絵を参考に上段、下段に正しくセットしてお使いください。



使える容器・使えない容器

○ は使える。
× は使えない。

- レンジ加熱とオーブン、グリル加熱を間違えないでください。間違えると食品や容器が発煙・発火することがあります。加熱する前に、加熱の種類を確認してください。
- プラスチック類は家庭用品質表示法に基づく耐熱温度表示をごらんください。
- 材質や耐熱温度がわからない容器はつかわないでください。

使える容器・使えない容器

使える容器・使えない容器

	プラスチック容器		陶器・磁器		ガラス容器		その他			
	耐熱性のあるプラスチック容器 ポリプロピレン製など	その他のプラスチック容器	耐熱性のある陶器・磁器 ココット皿 グラタン皿など	日常使っている陶器・磁器 茶わん・皿など	耐熱性のあるガラス容器	耐熱性のないガラス容器 強化ガラス クリスタルガラス カットグラスなど	ラップ類	金属容器・金串・アルミホイルなど	竹・木・籐・紙・ニス塗り・漆塗り容器など	
レンジ	○ 耐熱温度が140℃以上のもの、「電子レンジ使用可」の表示のあるものを使います。 ただし、砂糖、バター、油を使った料理は高温になり、容器が変形してしまうので使えません。	× 耐熱温度が140℃未満のもの（ポリエチレン、スチロール樹脂など）や耐熱温度が高くても電波で変質するもの（メラミン、フェノール、ユリア樹脂、アルミなどで表面加工した樹脂など）は使えません。 ただし、 スチーム調理 16 半解凍 17 解凍 のときにだけ、発泡スチロールのトレーが使えます。	○	○ ただし、色絵付け、ひび模様、金、銀模様のあるものは、器を傷めたり、火花（スパーク）がでるので使えません。 また素焼きの陶器など吸水性の高いものや、長時間浸水させた陶器、磁器は、熱くなることがあるので注意してください。	○	○ 加熱後、急冷すると割れることがあります。	×	○ 耐熱温度が140℃以上のものは使えます。 ただし、油、バター、砂糖を使った料理は高温になり、ラップが溶けてしまうので使えません。	× 電波を反射するので使えません。 ただし、アルミホイルは電波を反射する性質を利用し、加熱しすぎる部分をおおうなど、部分的に使えます。 このとき、加熱室壁面、ドアファインダーにふれると火花（スパーク）が出て、破損や故障の恐れがあるので注意してください。	× こげたり、塗りがはげたり、ひび割れることがあるので使えません。 とくに針金を使っているものは燃えやすくなります。 ただし、竹串、楊子、紙は料理集に記載している使い方に限り使えます。
オーブン、グリル	× ただし「グリル、オーブン使用可」の表示のあるものは使えます。	×	○	×	○ 加熱後、急冷すると割れることがあります。	×	× ただし発酵では使えます。	○ ただし、取っ手がプラスチックのものは使えません。	× ただし、硫酸紙や耐熱性の加工を施した紙製品は使えます。	

上手な使いかたのポイント

食品の分量と容器の大きさ

	食品の分量		容器の大きさ
あたためる	100g未満  手動調理で	100g~600g  オート調理か手動調理で	 食品が7~8分目になる容器が目安

調理する

オート調理: のみものデイリー, スチームあたため, スチーム調理, 過熱水蒸気

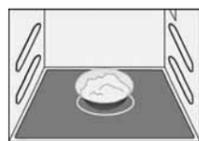
手動調理: オープン(発酵), グリル, レンジ(発酵)

オート調理や手動調理は、クッキングガイドの分量や容器に従ってください。

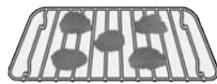
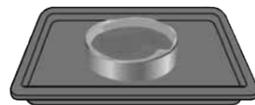


食品を置く位置

■中央部に置く。2個以上の場合も中央部にまとめる。

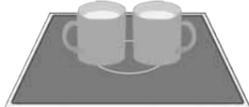


※テーブルプレート中央部分の温度をはかっていますので、食品を端に置いて加熱すると正しく食品の温度がはかれずに加熱しすぎや加熱ムラの原因となります。



2個以上の食品の同時加熱

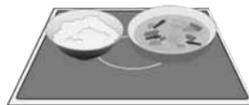
■分量を同じくらいにして中央部に寄せて置きます。



■異なる容器や食品はうまく調理できません。

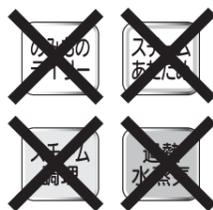


■異なる食品は手動調理で様子を見ながら加熱。



オープン(発酵) グリル レンジ(発酵)

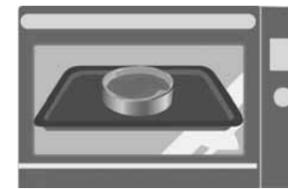
■異なる食品はオート調理はできません。



調理中の仕上がり状態の確認

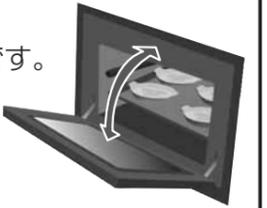
■調理中のドアの開閉は、できるだけさけ、開閉するときは、短時間にする。

確認はドア越しに



※温度を下げないためです。

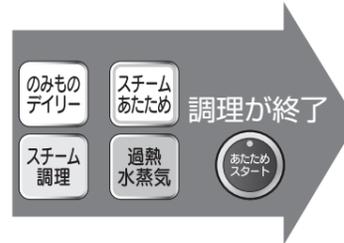
開閉するときは短時間に



※ドアを開けると調理は中断されます。

オート調理後の追加加熱

■追加加熱は、手動調理で様子を見ながら行う。



こんなときは・・・
もう少し熱くしたいとき
や焦げ目をつけたいとき
などは追加加熱をする

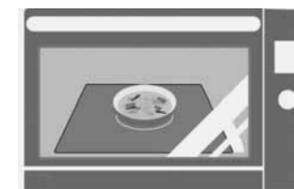


調理後の食品や付属品の取り出し

⚠ 注意

!(やけどの原因)
調理中や調理終了後は食品や容器、付属品、庫内、ドアなど各部が熱くなる場合があるので注意する。

■調理が終了したら、食品を早めに取り出す。 ※余熱で仕上がりが変わることがあるためです。



調理終了音が鳴ったら取り出してください。

取り出し忘れ防止のために調理終了後、ドアが開けられるまでに、1分ごとに「ピピピ」と3回鳴ってお知らせします。

※オープン、グリル調理で角皿を取り出すときは、中央部分を厚めの乾いたふきんやお手持ちのオープン用手袋を使い両手で取り出します。

メロディーの切り替えかた

■好みによって、メロディー音を「ブザー音」や「無音」に変えられます。

ドアを開閉して表示部に「0」を表示させてから、温度/仕上がり を3秒間押し続けます。ピッとブザー音が鳴ったら切り替えが終了です。同じ操作でブザー音を無音に切り替えられます。さらに同じ操作でメロディー音にもどすことができます。

初めてお使いになるときの準備

■梱包材は、すべて取り除いてからご使用ください。※空焼き(脱臭)はヒーター(オープン加熱)で行います。

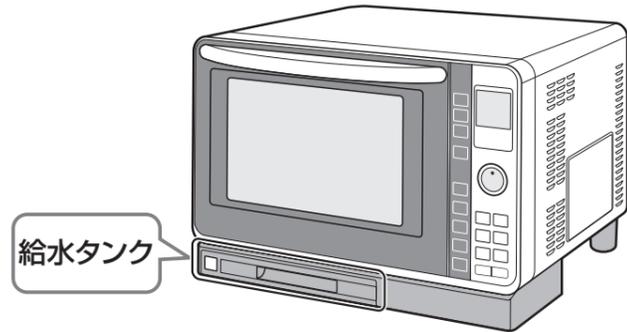
注意



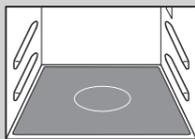
(やけど・けが・火災の原因)

- 空焼きの加熱中や終了後しばらくは、本体(ドア、キャビネット、加熱室とその周辺)にふれない。
- 空焼き(脱臭)を行うときは、加熱室に何も入れない。

初めてお使いになるときの準備



1 加熱室を空にしてドアを閉める



2 空焼きをする

お手入れ
1清掃 2脱臭
を2回押し、
2脱臭を選択する

押すごとに1▶2▶1と選択できます。



3 あたためスタートを押す



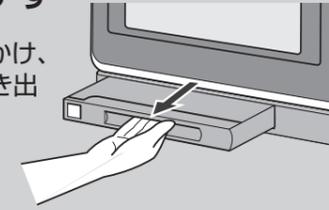
終了音が鳴ったら終了です

※空焼き(脱臭)を行うときは、油の焼ける臭いや、煙が出る場合があるので、窓を開けるか、換気扇を使って換気を行ってください。

給水タンクの使いかた

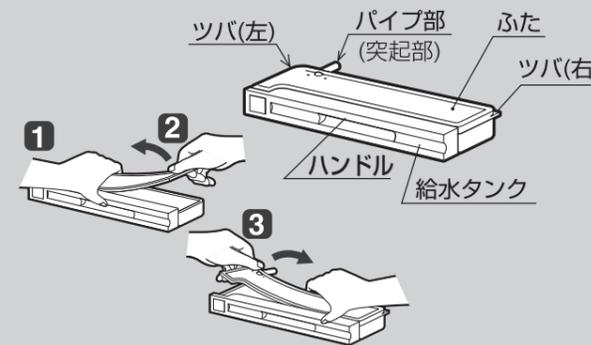
1 本体からはずす

給水タンクに手をかけ、そのまま水平に引き出します。



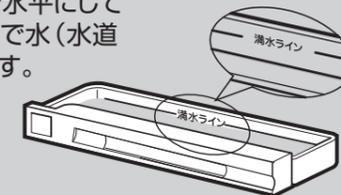
2 洗う

- 1 パイプ部には触れないようにして、給水タンク全体を軽く持ちます。
- 2 ふたのツバ(右)に指をかけ、右側面全体を持ち上げます。
- 3 ツバ(左)に指をかけ、左側面全体を持ち上げ、ふたを外します。



3 水(水道水)を入れ、ふたをする

- 1 給水タンクを水平にして満水ラインまで水(水道水)を入れます。



- 2 周囲全体を押さえて確実にふたを閉めてください。
※傾けると水がこぼれることがあります。水平の状態でご確認ください。

4 本体にセットする

給水タンクを水平に持って、挿入口に入れ、しっかり奥まで差し込みます。
※確実にセットしないと、水もれやスチーム不足の原因になります。

注意

(やけどの恐れ)

スチームとオープンやグリルを併用した場合は給水タンク内の残水が熱くなっているため注意する。

お願い

●使用する水は、塩素消毒された水道水を使用してください。浄水器の水、ミネラルウォーター、アルカリイオン水、井戸水などを使用した場合はカビや雑菌が発生しやすくなります。長時間使用した場合にスチーム噴出口が詰まる場合があります。

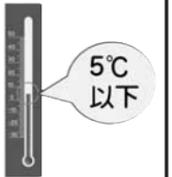


●スチームを使う場合は給水タンクの満水ラインまで水を入れ、確実に本体にセットしてください。水が少なかったり、半挿入で行うと「給水」表示が出てスチームが止まり、仕上がりが悪くなります。

●給水タンクは使用するたびに、水で洗い、新しい水を入れてください。給水タンクの中に水を入れたままにしておくと雑菌が繁殖する原因になります。

●スチームを使ったあとはパイプの水抜きをしてください。→ P.43

●5℃以下の環境では使用しないでください。スチームを使う調理が上手にできなくなります。



●給水タンクに水以外は入れないでください。故障の原因になります。

●使用しない場合は、空にして本体に取り付けておいてください。

給水タンクの使いかた

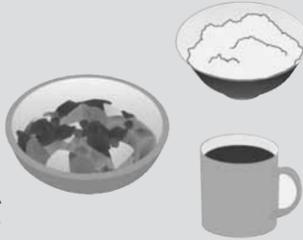
調理の手順

オート調理

調理方法は

あたためる

ごはん
お総菜
飲みものなど



■オート調理であたためる →P.22、23
1あたため 2解凍あたため メニュー番号 1~2

■オート調理であたためる →P.24~26

スチームあたため メニュー番号 11~15

牛乳、お酒 メニュー番号 3~4

調理する

グラタン
茶わん蒸し
鶏のハーブ焼きなど



■オート調理で調理する →P.26~29

のみもの・デ일리 メニュー番号 5~10

スチーム調理 メニュー番号 16~24

過熱水蒸気 メニュー番号 25~32

手動調理

レンジ (発酵) →P.30~32、38

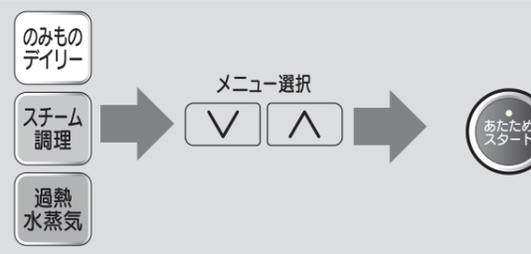
グリル →P.33

オープン (発酵) →P.34~36、39

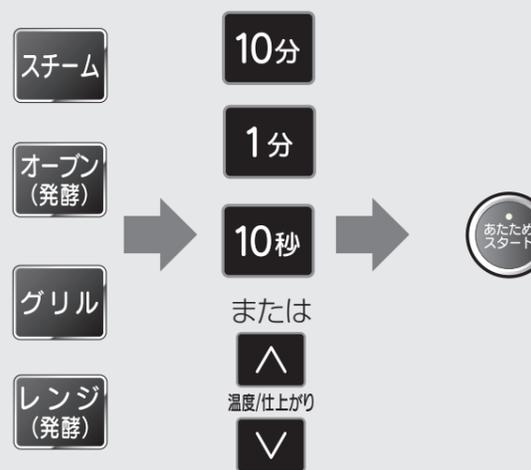
スチーム →P.37

■加熱の種類や時間、温度を手動で設定して調理する

操作手順は



終了音が鳴ったら終了です



終了音が鳴ったら終了です

調理のあとは

冷却ファンの風切り音がする場合があります。

→P.48

続けて調理しないときはお手入れをする。

お手入れ
1清掃 2脱臭

→P.42

→P.43

約10分放置すると自動的に電源が切れます。

→P.2

「入」にするときはドアを開けます。

■オート調理や加熱の種類で付属品(角皿・焼網)を使い分ける

操作手順の準備を右の絵で表示

角皿を使う



角皿を使わない



焼網を使う



焼網を使わない



給水タンクを満水
または空にする



満水



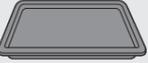
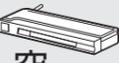
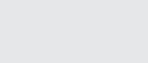
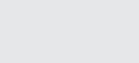
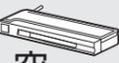
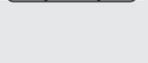
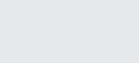
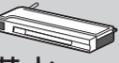
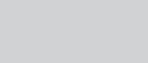
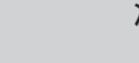
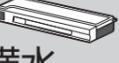
空

■設定の取り消し、あたためや調理の中止は とりけし

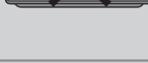
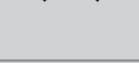
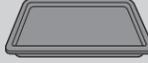
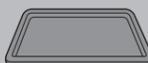
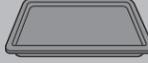
オート調理

オート調理一覧

オート調理で使う付属品・参照ページ

メニュー分類	参照ページ		付属品の使用について		
	操作手順	コツ			
あたため	1 あたため	→ P.22	→ P.23	  	
	2 解凍あたため	→ P.22	→ P.23	  空	
のみもの・デイリー	3 牛乳	→ P.26	→ P.26		
	4 お酒	→ P.26	→ P.52	  	
	5 葉・果菜	→ P.26	→ P.27		
	6 根菜	→ P.26	→ P.27		
	7 グラタン	→ P.26	→ P.68	  	
	8 ピザ	→ P.26	→ P.69	  空	
	9 焼きそば	→ P.26	→ P.63	  	
	10 コンビニ弁当	→ P.26	→ P.27	  空	
	スチームあたため	11 しっとりあたため	→ P.24	→ P.25	
		12 中華まん(冷蔵)	→ P.24	→ P.65	  
13 中華まん(冷凍)		→ P.24	→ P.65	  満水	
14 シューマイ		→ P.24	→ P.53		
15 天ぷらあたため		→ P.24	→ P.25	   満水	

オート調理で使う付属品・参照ページ

メニュー分類	参照ページ		付属品の使用について	
	操作手順	コツ		
スチーム調理	16 半解凍	→ P.26	→ P.28	  
	17 解凍	→ P.26	→ P.28	  満水
	18 茶わん蒸し	→ P.26	→ P.64	
	19 プリン	→ P.26	→ P.75	
	20 ケーキ	→ P.26	→ P.72	
	21 シュー	→ P.29	→ P.76	   満水
	22 フランスパン	→ P.29	→ P.78	
	23 かんたんパン	→ P.26	→ P.80	
	24 低温調理	→ P.26	→ P.71	
	過熱水蒸気	25 鶏のハーブ焼き	→ P.26	→ P.56
26 スペアリブ		→ P.26	→ P.56	
27 鶏のからあげ		→ P.26	→ P.60	
28 エビフライ		→ P.26	→ P.61	  満水
29 ヒレカツ		→ P.26	→ P.61	
30 オープン天ぷら		→ P.26	→ P.60	
31 焼き野菜		→ P.26	→ P.55	   満水
32 焼き魚		→ P.26	→ P.59	  満水

オート調理

のみもの・デイリー

スチームあたため

スチーム調理

過熱水蒸気

オート調理

オート調理 ワンタッチスタートのオートであたためる

ごはんやお総菜をあたためる

お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

(発酵) 1あたため 2解凍あたため

あたためスタート 1

10分
1分
10秒

オート調理

のみもの
ティラー

スチーム
あたため

スチーム
調理

過熱
水蒸気

お手入れ
1清掃 2脱臭

とりけし

メニュー選択

温度/仕上がり

準備 食品を入れた容器や皿を
テーブルプレートの中央に
置き、ドアを閉める



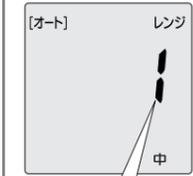
1 **あたためスタート** を押す

1回押し: 1あたため
2回押し: 2解凍あたため

お好みにより
希望の仕上がりに調節する

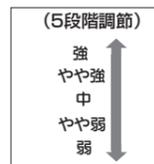
(加熱時間を表示する前に設定します。)

■あたため選択
押すごとに1▶
2▶1と切り替わります。



1: 1あたため
2: 2解凍あたため

■仕上がり調節
強～弱まで5段階
に設定できます。



食品の置きかた

●テーブルプレートの中央に置く

テーブルプレート

食品が2個以上の場合、
中央に寄せる

※食品を端に置いたり、少量の食品を加熱すると、正しく食品の温度をはかれずに加熱しすぎとなり、発煙・発火の恐れがあります。

- 牛乳、コーヒー、水、お茶、豆乳のあたためは [3牛乳] を使います。→ P.26
- お酒のあたためは [4お酒] を使います。→ P.26
- その他の飲みもののあたためは手動調理で加熱します。→ P.30、31、41
- 1あたため 2解凍あたため は、ドアを閉めて約10分以内(表示部に「0」が表示されている間)に押ししてください。ドアを開閉して約10分を過ぎるとスタートしません。ドアを開閉して押ししてください。
- 仕上がりがぬるかったときは、[レンジ600W] で様子を見ながら、さらに加熱します。オート調理で追加加熱すると、熱くなりすぎます。

次の食品は「手動調理」で様子を見ながらあたためる → P.40、41

1あたため 2解凍あたため ではあたためられません。

●重量が100g未満の食品

●まんじゅう

●パン類

●冷凍野菜

●市販のおにぎり

●乳幼児用ミルク、ベビーフード

●市販の調理済み食品

※包装をはずします。

※別の容器に移し換えます

※別の容器に移し換えます

あたためられる食品と上手なあたためかた

■オート調理の1回分の分量目安は1～2人分です。
(分量は食品と容器を合わせて1,200gまでです)

このマークの付いた食品はラップなどのおおいをする。

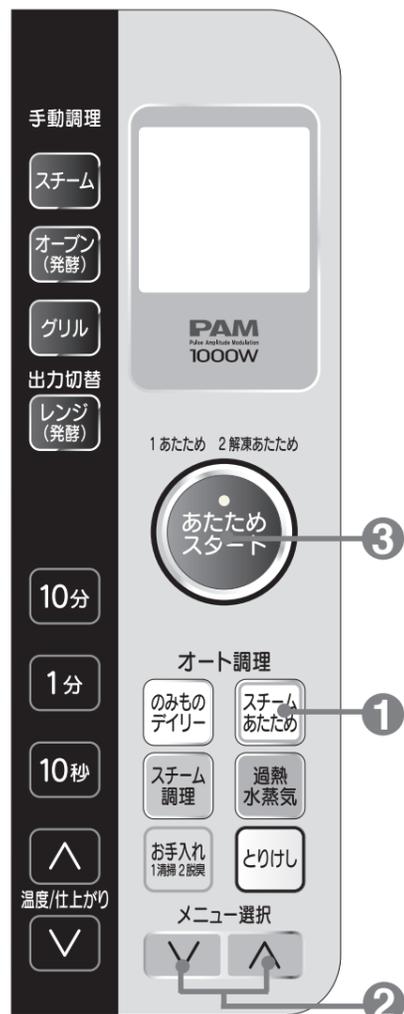
	(オート調理) 1あたため	(オート調理) 2解凍あたため
ごはんもの	ご家庭で調理し、室温や冷蔵保存した食品をあたためる 1回押し	ご家庭で調理し、冷凍保存した食品を解凍してあたためる 2回押し
めん類	ごはん・おにぎり スピーディーにあたためたいとき [1あたため] 仕上がり調節 [やや弱] で加熱する。 おにぎりは皿にのせる。 チャーハン・ピラフ 加熱後、かき混ぜる。	冷凍ごはん・おにぎり 四角形に形作ったごはんをラップの重なっている方を下にして平皿にのせる。2個以上のときは分量を同じにして、中央にのせる。 冷凍チャーハン・ピラフ ほぐして皿に入れる。加熱後、かき混ぜる。
焼きもの	焼き魚 飛び散ることがあるのでおおいをする。 ハンバーグ ソースは飛び散ることがあるので加熱後にかける。 焼きとり、焼き肉 皿に並べる。たれをぬってから加熱する。	冷凍ハンバーグ 皿にのせる。加熱後、裏返してしばらくおく。
揚げもの	天ぷら・フライ・コロッケ 皿に並べる。えびやいかは飛び散ることがあるのでおおいをする。分量の少ないときは仕上がり調節 [やや弱] または [弱] に合わせる。	冷凍天ぷら・フライ・コロッケ 皿に並べる。仕上がり調節 [やや弱] か [弱] に合わせる。油が気になるときは、加熱後、ペーパータオルでとる。
炒めもの	野菜の炒めもの・酢豚・八宝菜 容器に入れる。野菜炒めが乾燥している場合は、バターかサラダ油を加える。加熱後、かき混ぜる。	冷凍八宝菜・ミートボール 容器に入れる。加熱後、かき混ぜる。
煮もの	野菜の煮もの・おでん(たまごは取り除く) 容器に入れて、煮汁をかける。 煮魚 容器に入れて、煮汁をかける。煮魚は身が飛び散ることがあるので、深めの皿を使い、おおいをする。	
蒸しもの	シューマイ 少しすき間をあけて皿に並べ、水分を補ってから加熱する。乾燥ぎみのときは、サツと水にくぐらせる。	冷凍シューマイ サツと水にくぐらせて皿に並べる。加熱後はすぐにラップをはずす。
汁もの	カレー・シチュー えびやいか、丸ごとのマッシュルームは飛び散ることがある。(丸ごとのマッシュルームはあらかじめ取り除き加熱後、加える) 仕上がり調節 [やや強] か [強] に合わせる。 みそ汁・コンソメスープ 加熱後、かき混ぜる。	冷凍カレー・シチュー 容器に入れ、おおいをする。ふたの代わりにラップをするときは、ゆとりをもっておおい、仕上がり調節 [やや強] か [強] に合わせる。加熱後、かたまりをほぐし、かき混ぜる。

オート調理 オート調理であたためる

スチームでお総菜をあたためる(スチームあたため)

お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

スチームあたため
11 しっとりあたため 14 シューマイ
12 中華まん(冷蔵) 15 天ぷらあたため
13 中華まん(冷凍)



準備 食品とメニューにあった付属品を入れ、ドアを閉める

1 **スチームあたため** を押す

2 **メニュー選択** を押し **希望のメニュー番号を選択する**
 希望のメニュー番号を選択する
 12中華まん(冷蔵)、13中華まん(冷凍)は個数(1~4個)もセットします。
お好みにより希望の仕上がりに調節する

3 **あたためスタート** を押す

終了音が鳴ったら食品を取り出す
 庫内灯が消灯し、表示が「0」になり、加熱が終了します。

11しっとりあたため ~14シューマイは
 15天ぷらあたためは

満水

満水

メニュー番号
 [オート] レンジ
 1:12 スチーム
 個数 仕上がり設定

食品の置きかた

●テーブルプレートの中央に置く

テーブルプレート

食品が2個以上の場合、中央に寄せる

※食品を端に置いたり、少量の食品を加熱すると、正しく食品の温度がはかれずに加熱しすぎとなり、発煙・発火の恐れがあります。

※調理後は、ふきんなどで庫内やドアの水滴をよくふきとってください。 → P.42

(オート調理) 11しっとりあたためのコツ

- スチームで包み込んでふくらあたためます。
- ラップなどのおおいはしません。スチームで食品の乾燥を防ぎながら、しっとりふくらあたためます。
 - 陶磁器や耐熱性のガラス容器に入れて加熱します。
 - 1あたためより加熱時間は長くなります。
 - 冷蔵庫から出したものは 仕上げ調節 **やや強** で加熱します。
 - 調理済み冷凍食品は上手にあたためません。**2解凍あたため** を使ってください。
- 冷凍のごはんや冷凍のお総菜は上手にあたためません。
2解凍あたため または手動調理であたためてください。 → P.30, 40

(オート調理) 15天ぷらあたためのコツ

- 冷めた天ぷらやフライをパリッとカラッとあたためます。
- 冷凍の揚げものはあたためることができません。
 - 100g以下のあたためはできません。100g以上にするか **オープン** | 180℃ で様子を見ながら加熱します。
 - 天ぷらなど加熱後に底面がベタつくときは、ペーパータオルなどで油分をとりま。
-

オート調理

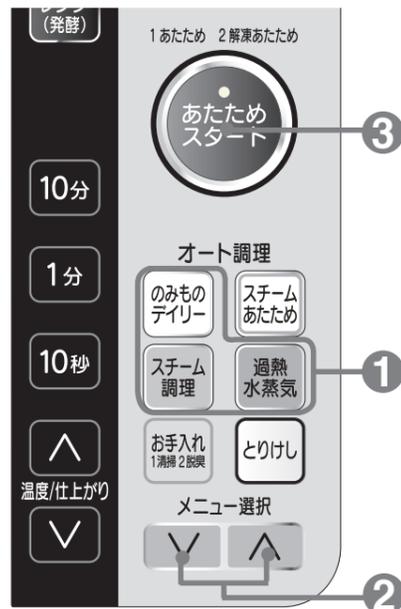
オート調理

オート調理 予熱なしメニューで調理する

オート調理(のみもの・デイリー)、(スチーム調理)、(過熱水蒸気)

お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

のみもの・デイリー	スチーム調理	過熱水蒸気
3 牛乳 6 根菜 9 焼きそば 4 お酒 7 グラタン 10 コンビニ弁当 5 葉・果菜 8 ピザ	16 半解凍 19 プリン 22 フランスパン 17 解凍 20 ケーキ 23 かんたんパン 18 茶わん蒸し 21 シュー 24 低温調理	25 鶏のヘルプ焼き 28 エビフライ 31 焼き野菜 26 スペアリブ 29 ヒレカツ 32 焼き魚 27 鶏のからあげ 30 オープン天ぷら



準備 食品とメニューにあった付属品を入れ、ドアを閉める

1 のみもの・デイリー スチーム調理 過熱水蒸気 を選択する

2 メニュー選択 を押し 希望のメニュー番号を選択する

3牛乳は1~4杯、4お酒は1~4本をセットします。

お好みにより を押し 希望の仕上がりに調節する

3牛乳、4お酒は仕上がり設定の目盛を記憶します。

3 あたためスタート を押す

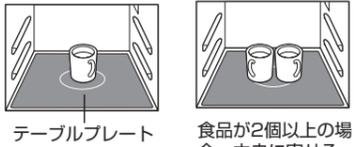
終了音が鳴ったら食品を取り出す
庫内灯が消灯し、表示が「0」になり、加熱が終了します。

※調理後は、ふきんなどで庫内やドアの水 droplet をよくふきとってください。→ P.42



食品の置きかた

● テーブルプレートの中央に置く



※中央部分の温度をはかっていますので飲みものを端に置くと正しく温度がはかれずに加熱しすぎや加熱ムラとなり沸とうしたり、仕上がりが悪くなる場合があります。また加熱室から取り出した後でも突然沸とうして飛び散り、やけどすることがあります。

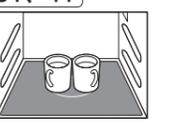
(オート調理) 3牛乳 のコツ

● 1回であたためられる分量は1~4杯(本)です。

飲みものの種類	1杯分の分量
牛乳	200mL(冷蔵)
コーヒー	150mL
水	180mL
お茶	180mL

● 容器の7~8分目が適量です。容器に対して少量(1/2量以下)しか入れないと、加熱室から取り出した後でも、突然沸とうして飛び散り、やけどすることがありますので手動調理で加熱します。→ P.31、41

- 2個以上の場合は、テーブルプレートの中央に寄せて置きます。
- 牛乳は冷蔵室から出したてのものを使います
- 牛乳びんでの加熱はできません。
- お酒のコツは → P.52



(オート調理) 5葉・果菜 6根菜 のコツ

加熱する分量は 5葉・果菜 で100~300g 6根菜 で100~600gです。

5葉・果菜

葉菜 ほうれん草、小松菜など葉が食べられるもの

果菜 なす、かぼちゃなど果実や種子が食べられるもの

花菜 カリフラワー、ブロッコリーなど花弁やつぼみが食べられるもの

6根菜

じゃがいも、さつまいもなど地中にある根茎や根が食べられるもの

ラップで包みテーブルプレートの中央に直接のせて丸のままのじゃがいもなど複数個を加熱するときは、中央に寄せてまとめてラップに包んで加熱します。

注意

(火災の原因)
分量が100g未満のときはオート調理で加熱しない。
レンジ500Wで様子を見ながら加熱します。
→ P.30
● クッキングシートなどの紙類で包んで加熱しない。

(オート調理) 10コンビニ弁当 のコツ

- あたためられる弁当はコンビニエンスストアで販売されているお弁当です。
- ごはんとおかずが分かれて入っている弁当(加熱時間の目安 1個(約450g) 約1分30秒)

他に「のり弁当」や「鮭弁当」のように、ごはんの上に具ののっているものもあたためられます。

- 丼もの(カツ丼・カレーライス・チャーハン・スパゲッティなど)
* あんかけ類(中華丼、あんかけ焼きそばなど)をあたためる場合、容器やふたが変形したり、あんかけの具(いか、えび、うずらの卵など)が加熱中に破裂したりする場合があります。ふたを取りはずし、これらの具を取り除いてから加熱し、加熱後加えます。

- 1回の分量は1個(1人分)です。
※ 冷蔵庫から出したものは仕上がり調節「やや強」か「強」にします。

10コンビニ弁当 であたためられないお弁当の例です。

- レンジ加熱に使用できない容器を使用している弁当
(紙や木でできた容器、アルミで加工された容器、発泡スチロール製の容器、ホッチキスなどで止めてある容器などを使用した弁当)
- 1種類ずつ小分けしている弁当
(から揚げ・シューマイなど)
- お弁当屋さんの持ち帰り弁当
- おにぎり → P.22、41

注意

ゆで卵や目玉焼きは破裂する恐れがあるので、加熱しない。(あたためる前に取り出す。)

オート調理 16半解凍 17解凍 のコツ

- 冷凍室で冷凍された肉や魚を解凍します。(冷凍室から出したばかりのコチコチに凍ったものを使います。)
- 一度に解凍できる分量は、100~600gです。
- 給水タンクに水を入れずに解凍したり、途中で給水ランプが点灯した状態で解凍すると、解凍しすぎになることがあります。

●加熱室は冷ましてから使ってください。

加熱室が熱いと「06」を表示して加熱できません。グリル、オープンの使用後は加熱室やテーブルプレートが熱くなっています。発泡スチロールのトレーが溶けたり、加熱しすぎることがあります。充分冷ましてから使ってください。

●発泡スチロールのトレーは、生ものの解凍以外には使用しないでください。

●形、厚みが均一でないものはアルミホイルを使って解凍
形、厚みが均一でないものは、細いところや薄いところに巻きます。大きなかたまりにはまわり(側面)に巻きます。頭や尾の部分は、先に加熱されやすいのでアルミホイルをピッタリと巻いて解凍すると、変色や煮えが防げます。
アルミホイルが加熱室壁面やドアファインダーに触れると火花(スパーク)が出て、テーブルプレートやドアファインダーが割れる恐れがあります。



●発泡スチロール製のトレーにのせたまま解凍

ラップなどの包装をはずし、テーブルプレートの中央にのせて解凍します。陶磁器や耐熱性の皿などは使わないでください。トレーがない場合は、テーブルプレートにオープンシートかペーパータオルを敷いて解凍します。

●解凍後そのまましばらく置き自然解凍をします。

次の場合は手動調理で途中様子を見ながら解凍します。

●調理済み冷凍食品や冷凍野菜はレンジ 200W で加熱する。解凍の目安は200gで4~5分です。

●分量が100g未満の場合
●バラバラになって凍っているもの
●解凍が足りなかったとき
●-20℃以下の冷凍食品(オート調理で加熱不足の場合)
冷凍保存温度は-18℃を基準にしています。
レンジ 100W で加熱する。



●とけかけている食品
とけかけている部分
レンジ 100W またはレンジ 200W で加熱する。



(オート調理) 16半解凍 17解凍 の使い分け

さしみを解凍後、そのまま生で食べる場合: 16半解凍



食品の中心が、少し凍っている状態に仕上がりますので、サクサクと包丁で切りやすく、食卓に出すとき食べごろになります。

肉や魚を解凍後、すぐ調理する場合: 17解凍



薄切り肉は、解凍後両手で大きくしなせませす。ひき肉やかたまり肉は仕上がりに調節「やや強」に合わせ解凍します。

上手な冷凍保存(フリージング)のコツ

●材料は新鮮なものを

1回分ずつ(200~300g)に分け、2~3cmの厚さで、極端に薄くならないように平らな形にまとめます。

●ラップなどでピッタリ密封をします。

●魚の下ごしらえは

魚はうろこやえら、内臓を取り、塩水で洗って水気をふき取り、一尾ずつ冷凍します。

●バラなどの飾りや敷きものは取り除きます。

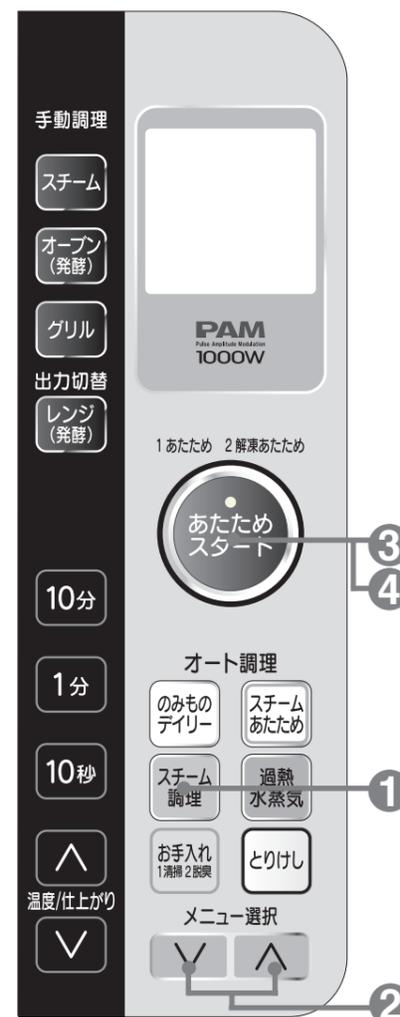


オート調理 予熱ありメニューで調理する

オート調理(スチーム調理) 21シュー 22フランスパン

お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

スチーム調理
16 半解凍 18 プリン 22 フランスパン
17 解凍 20 ケーキ 23 かたまりパン
18 茶わん蒸し 21 シュー 24 低温調理



準備 給水タンクに水を入れドアを開める

1 スチーム調理 を押す

2 メニュー選択 を押し 希望のメニュー番号を選択する

3 あたためスタート を押し お好みにより希望の仕上がりに調節する

4 あたためスタート を押す 予熱終了音が鳴り予熱が終わったらドアを開けて食品をのせた角皿を入れます。

■予熱中は節電のため庫内灯を消灯しています。予熱中にスタートボタンを押すと5秒間点灯します。

4 あたためスタート を押す

終了音が鳴ったら食品を取り出す 庫内灯が消灯し、表示が「0」になり、加熱が終了します。

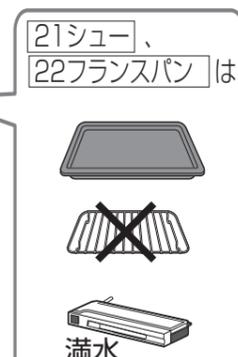
※使用後、給水タンクを空にします。

※調理後は、ふきんなどで庫内やドアの水滴をよくふきとってください。 → P.42

注意

角皿の出し入れは、やけどの恐れがあるので、厚めの乾いたふきんやお手持ちのオープン用手袋を使う。

- 取り出した角皿は、熱に弱い場所には置かないでください。開いたドアの上に置きます。
- 子供や幼児が触れないように気をつけてください。
- 破れたオープン用手袋や水にぬれたふきんは使わないでください。



手動調理 レンジを使う

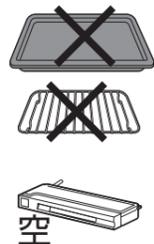
食品を一定のワット数で加熱する

800W/600W/500W/200W/100Wの操作方法を説明しています。レンジスチーム発酵の操作方は→P.38を参照してください。

お知らせ ドアを開けると電源が入ります。



準備 食品を入れた容器や皿をテーブルプレートの中央に置き、ドアを閉める



1 レンジ を押しワット数を選ぶ

ワット数選択
800W ▶ 600W ▶ 500W ▶ 200W
スチーム発酵 ◀ 100W ◀

例:800Wにセットした場合



2 10分 1分 10秒 を押し、時間を設定する

800W (最大設定時間3分)
600W/500W (最大設定時間19分50秒)
200W/100W (最大設定時間90分)

例:1分20秒にセットした場合



3 あたためスタート を押し

終了音が鳴ったら食品を取り出す
庫内灯が消灯し、表示が「0」になり、加熱が終了します。

注意



レンジ加熱では加熱しない。(破裂の恐れ)



生卵



ゆで卵



黄身や目玉焼き

(※生卵を加熱する場合は、ときほぐしてから加熱する。)

加熱時間の決めかた

●同じ分量でも食品の種類(材質)によって調理時間も違います。

食品100g当たり レンジ 800W の加熱時間の目安

食品の種類		生からの調理	あたため	食品の種類		生からの調理	あたため
野菜類	葉・果菜類	50秒~ 1分20秒	40秒~50秒	めん類	—	—	40秒~50秒
	根 菜	1分20秒~ 1分40秒	40秒~50秒	汁もの (みそ汁・スープなど)	—	—	1分10秒~ 1分30秒
魚介類	—	1分20秒~ 1分40秒	40秒~50秒	飲みもの (酒・牛乳など)	—	—	20~40秒
肉 類	—	1分40秒~2分	50秒~1分10秒	パン・まんじゅう	—	—	20~30秒
ごはん類	—	—	20~40秒	ケーキ	40秒~50秒	—	—

※ レンジ 500W で加熱する場合は、約1.5倍の加熱時間にします。(標準温度20℃のとき)

●レンジ800Wの最大設定時間は3分です
3分以上加熱する場合はレンジ600Wで加熱します。

●食品の分量にほぼ比例します
分量が倍になれば時間も倍、半分になれば時間も半分になります。

●加熱前の食品温度によっても違います
同じ食品でも、冷蔵庫や冷凍室から出して使う場合は、加熱時間がかかります。
標準温度(20℃のとき)に対して、冷蔵は約1.3倍、冷凍は約2.3倍が目安です。
また夏と冬で多少加熱時間が違います。

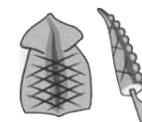
●使う容器によっても違います
容器の材質や大きさ、形状によっても加熱時間は多少違ってきます。

●少量の食品(100g未満)を加熱する場合
レンジ500Wで加熱時間を20~50秒に設定し、様子を見ながら加熱します。特に小さく切ったにんじんなど野菜が少量(100g未満)のときに乾燥したり、火花(スパーク)が出て焦げたりすることがあります。水を多めにふりかけてラップに包むか皿などに広げ、浸るくらいの水を入れてラップでおおい、加熱します。

下準備をする はじけや飛び散りをふせぎます。

●イカやタコは表面に切り目を入れる

※レンジ200Wで加熱時間をひかえめにします。



●殻付きの栗やぎんなん



※切れ目や割れ目を入れておおいをして加熱します。

●マッシュルームは半分に切る



●ひじき
※レンジ200Wで加熱時間をひかえめにします。



●さいの目野菜(にんじんなど)
※100g以上にするか、水をふりかけ、ラップをしてレンジ500Wで加熱します。

●とろみのあるものなどはおおいをして加熱前と加熱後にかき混ぜる



手動調理 レンジを使う

加熱途中でワット数を自動的に切り替える(リレー加熱)

お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備 食品を入れた容器や皿をテーブルプレートの中央に置き、ドアを閉める

1 **レンジ(発酵)** を押し **800W** または **600W**、**500W** を選ぶ

ワット数選択
800W ▶ 600W ▶ 500W ▶ 200W
← スチーム発酵 100W ←

例:600Wにセットした場合
レンジ **600**W

2 **10分** **1分** **10秒** を押し、**時間を設定する**

例:10分にセットした場合
レンジ **10.00**分

3 **レンジ(発酵)** を押し **200W** または **100W** を選ぶ

例:200Wにセットした場合
レンジ **200**W

4 **10分** **1分** **10秒** を押し、**時間を設定する**

例:25分にセットした場合
レンジ **25**分

5 **あたためスタート** を押し

終了音が鳴ったら食品を取り出す
庫内灯が消灯し、表示が「0」になり、加熱が終了します。

手動調理 グリルを使う

魚など表面に焦げ目をつける調理

お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備 食品をのせた焼網と角皿を入れ、ドアを閉める

1 **グリル** を押し

2 **10分** **1分** **10秒** を押し、**時間を設定する**
(最大設定時間40分)

例:15分にセットした場合
グリル **15.00**分

3 **あたためスタート** を押し

終了音が鳴ったら食品を取り出す
庫内灯が消灯し、表示が「0」になり、加熱が終了します。

調理後の加熱室の油污は「においが気になるとき」を参照して**お手入れ** **2脱臭** で加熱してください。→ P.43

※調理終了後、冷却ファンが回転する場合があります。
※40分以上のときは残り時間を追加加熱してください。

グリルの上手な使いかた

角皿と焼網を使い分けて

肉や魚は角皿にのせた焼網に並べて上段に入れて焼きます。メニューによっては角皿に直接のせて焼きます。

途中で裏返しをしてさらに焼く

片面を焼いてから裏返して、さらに焼きます。魚などは盛り付けたとき上になる方を下にして並べて焼き、途中で裏返してさらに焼きます。

並べかたは

魚や肉類は焼網に並べます。

※オート調理**32焼き魚**は角皿を使用します。(焼網は使用しません。)

食品の焼き色を調節するため、加熱途中で加熱時間を変えることができます。

■加熱時間を変えるときは温度/仕上がり **▼** **▲** を押し、1分単位で増減できます。

但し、最大加熱時間(40分)を設定した場合、加熱時間を追加することはできません。また、残時間表示が1分未満となった場合は加熱時間を減少することはできません。

※トーストや焼きもち、丸身の魚は焼けません。